

日本共産党 森本ふみお 後援会ニュース



2014年
7月20日
No136

日本共産党森本ふみお後援会事務所
井原市木之子町2721-23
TEL62-6061 FAX62-6081

6月の「日本共産党森本ふみお後援会ニュース」を発行して以後約1か月間の議員としてや地域の役員等として参加したことのごく一部ですがつぎに紹介いたします。



6月23日

井原市議会最終日の本会議で、私が紹介議員になっていた請願2件が、委員会で不採択になったので、採択すべきだと発言しました。結果は不採択で最終決定されました。(写真：井原放送より)

7月5日

井原市神代町の井原市ふれあいセンターで「ふれあい七夕まつり」が開催され、来賓として出席。老若男女が言葉を交わしながら、ふれあいを深めていました。



6月25日

岡山県井原地区清掃施設組合議会が開催され出席しました。

7月8日

「いばらサンサン交流館」で井原地区老人クラブ連合会主催の「平成26年度 市長を囲む会」が開催され、木之子の老人会会員として出席しました。



6月27日

木之子公民館で「平成26年度第1回木之子地区福祉懇談会」に協議会顧問として出席。

7月11日

井原図書館で井原市立図書館協議会が開催され傍聴しました。



井原市政に対するご意見・ご要望をお寄せください

井原市議会平成26年9月定例会の開会予定日は9月29日(月)です。皆様の井原市政に対するご意見・ご要望をお近くの党員か下記の電話・FAXにお気軽にお寄せください。皆様のご意見・ご要望が1つでも多く実現するよう、引き続き奮闘したいと考えています。

日本共産党後援会事務所
森本ふみお宅

TEL 62-6200
TEL 62-6061

FAX 62-6209
FAX 62-6081

この「後援会ニュース」は、森本ふみお市議のブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見ることができます。

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗
7月15日付
「主張」より

日本共産党92周年

歴史の岐路、決意を新たに

日本共産党はきょう、1922年(大正11年)7月15日の創立から92周年を迎えました。「海外で戦争をする国」づくりへ暴走する安倍晋三政権のもと、歴史の逆行を許さない世論と運動が広がりを見せる大激動の情勢です。日本共産党は創立時の戦前の暗黒時代から、過酷な弾圧に屈せず侵略戦争反対の旗を敢然と掲げ続けてきました。戦争か平和かをめぐる歴史の大きな岐路に、反戦平和を貫く党の存在をかけて安倍政権と対決し、広範な国民と手をたずさえ、未来を切り開いていく決意です。

「戦争反対」が立党の原点

「安倍政権に非常に危機感を覚える。私の考えに最も近いのが共産党。現政権に歯止めをかけてほしい」一。いま日本共産党本部や赤旗編集局に届いている声です。集団的自衛権行使反対の街頭署名には市民の列ができ、「子どもが戦争に行くのか、本当に不安」「共産党頑張れ」の声がかかります。

自民党元幹事長らが「しんぶん赤旗」に登場し「平和と立憲主義を守れ」と発言しているのも、党と「赤旗」を「腹のすわった抵抗勢力」と見込んでいただいていることです。多くの方々が日本共産党と「赤旗」に期待を寄せてくださっていることに身が引き締まる思いです。

戦争への道を絶対に許さない—これは日本共産党の創立の原点です。日本共産党が誕生した当時の日本は、「天皇絶対」の旗を振りかざした軍部が朝鮮への支配や中国への侵略を拡大する「暗黒国家」「戦争国家」でした。国民は自由な発言を許されず、異を唱えれば容赦なく弾圧されました。

そうしたなか創立された日本共産党は「非合法」とされながら、侵略戦争反対、主権在民の旗を掲げ、文字通り命がけてたたかいました。多くの先人が命まで奪われました。しかし、このたたかいに大義があったことは、日本軍国主義が戦争に敗れ、戦後憲法に戦争放棄と主権在民の原則が書き込まれたことが証明しています。

侵略戦争への痛苦の反省の上に立った戦後日本の歩みをあからさまに否定しようというのが安倍政権です。自衛隊が海外の戦争で「血を流す」集団的自衛権の行使容認、国民の目・耳・口をふさぐ秘密保護法の強行、改憲への異様な執念など「戦争前夜」を想起させます。

国会は、一部の野党が競い合うように安倍政権にすり寄り、暴走に手を貸す異常な光景が覆っています。日本共産党以外の全政党が解党し「大政翼賛会」に合流した戦前の翼賛政治をほうふつさせます。一部の全国紙などの安倍政権“応援”は、戦争をあおった戦前のメディア状況を思い起こさせるありさまです。



15日党創立92周年
記念講演する志位委員
長(インターネット中
継より)

安倍政権と正面对決

しかし、戦前と決定的に違うのは、国会に日本共産党が存在し、マスメディアでは「赤旗」が影響力を発揮していることです。自民党と日本共産党の対決—「自共対決」の構図はいよいよ鮮明です。

安倍政権に日本の未来は託せません。日本共産党は対決だけでなく、どんな問題でも国民の立場から対案を示す力があります。

日本共産党と「赤旗」は歴史の岐路のなか、立党の精神を胸に刻み、さらに力を尽くします。一人でも多くの方が、この党に加わっていただくとともに、「赤旗」のご購読を心からお願いするものです。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。

